

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

活動報告1 国際理解と平和教育と情報教育（継続の部分と新規の部分あり）

- ・実施時期 2015年4月～2016年3月
- ・事業形態 対象者 高校2・3年生
- ・他機関等との連携 文部科学省ユネスコ国内委員会・社団法人日本ユネスコ協会連盟
ユネスコアジア文化センター NPO 団体
- ・目的・目標

世界の教育問題を軸にして、世界寺子屋運動のポスターやパンフレット作成を、情報の授業などで実施し、情報活用の実践力の育成をはかるとともに、教育の重要性や寺子屋運動の意義を学び、国際理解、平和教育の一助とする。さらに発展として、実際のボランティア活動へつなげる。また交流時に必要な英語・ディスカッション・コミュニケーション・分析の能力を身につける。

- ・概要 学習のねらいとしては、世界寺子屋運動への支援を通して出会った人やものに関わりを持つ中で、情報教育、国際理解、平和教育、人権教育などを推進し、総合的な学習の時間がめざす、自ら学び自ら考える力など全人的な生きる力の育成を図ります。また、世界寺子屋運動をより多くの皆さんに理解してもらうための効果的なリーフレットの要件やデザインを考え、追及する活動を通して、より分かりやすく印象的に伝える方法を学び、情報活用能力を育成します。

教科 情報での取り組み

(1学期) 概要についての説明

アフリカやアジアの地域の学校関係のビデオを見る。

ユネスコについて知る。寺子屋運動や貧困問題について知る。

- 具体的・効果的な方法を考える
- 他校との交流で意見交換する（外国の生徒とも意見交換する）
- リーフレット作りについて学習する。

(2学期) リフレットを実際に作成する。

- 他校との交流で意見交換する
- 作成したリーフレットを使って校内で活動を行う。
- 近隣の学校にも呼びかけて活動の輪をひろげる
- 専門家を授業にまねきワークショップを行う。
- 学園祭で展示発表をする。
- TV会議を用いて 小学生と交流する。

(3学期) 振り返り

配布先の生徒や先生に意見を聞き 改善していく。

相互評価を実施する。

研究の成果 日本では考えられないことですが、文字を読んだり書いたりできない、学びたくても学べない子どもたちがいる現状と出会い、向き合う参加校の子どもたちと教師が一緒になって、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かねばならない」というユネスコ憲章前文の理念に迫るプロジェクト学習になったと思います。

- (1) 世界諸地域の文化の多様性について理解・分析することができた。
- (2) 世界の中の日本人としての自覚を持ち、国際的視野に立つことができた。
- (3) ユネスコや国際連合の役割について理解することができた。
- (4) 発展途上国の歴史やまた 人権について正しく理解することができた。
- (5) わかりやすいパンフレットを作成することができた。
- (6) インターネット検索をすばやく行いつつ確かな情報を収集することができた。
- (7) 物事をいろいろな角度から見て考えることができた。(いいところ、悪いところ)

活動報告2 異文化理解（一部新規）

- ・ 実施時期 2015年4月～2015年6月
- ・ 事業形態 対象者 高校2年生・ボランティアクラブ員
- ・ 他機関等との連携 大阪大学・アメリカNJ州教育委員会
マレーシア・インドネシア高校

・ 目的・目標

羽衣学園高校と米ニュージャージー州メモリアル・ミドルスクールの生徒たちが、スクリーン映像を通じて意見を交換しあう“同時学習”を行った。遠く離れていてもすぐ隣にいるように画像を合成できる「ハイパーミラー」という遠隔対話システムを9年前から活用しての実践の継続である。今回の実践は、事前に自己紹介のビデオ撮影をして、掲示板やメールでのコメントや画像を通じての交流、その後掲示板を通じて意見交換をしあうシステムを活用した。昨年度は自分たちの撮影した写真について対話を図ることを一歩前進させテーマを「エコ活動（今年はリサイクルを重点的に）」に設定した。また、お互いのまちの紹介につなげるようねらい、「他教科への拡大も」ねらいに入れ、新タイプの国際遠隔授業として更なる広がりを期待した。

・ 概要

前半ステージ

5月～8月

- (1) 導入 主旨説明を実施する。
- (2) ウェブ検索実習 自己紹介ビデオ撮影させる。またビデオを編集する。
- (3) 機器の使い方の理解 デジタルカメラ・ビデオや掲示板などに慣れさせる。
- (4) テーマ（リサイクル）についての意見をメールや掲示板で実施する。小グループいくつかに分かれさせ発表させあう。最終的なテーマをまとめさせる。
- (5) グループ内意見交換 発表項目を理解させ意見をまとめさせる。まずは日本語によるまとめを書かせる。そのあと英訳させる。
- (6) 海外生徒（アメリカ東部の学校）との意見交換 送ったまた届いたビデオ・写真やメールに、異文化的な理解の違いが見られないか考えさせメールやホームページを利用して意見交換させる。

後半ステージ

9月～10月

- (1) 校内外調整 主旨を発表し当日参加生徒・見学生徒を募集する。
- (2) アメリカ・日本側各学校で担当教員より 企画の趣旨説明をする。
- (3) エコリサイクルというテーマでグループ分けをして掲示板などへの書き込みを実施する。
- (4) エコリサイクルから連想するさらに細かいテーマを選び、参加生徒各個人・グループで調査・研究を実施する。教員は生徒の進め方に、質問に答えるなどして、個別指導を実施する。

11月

- (5) アジアの学校とTV会議を実施する。
事前に発表内容を プレゼンテーションソフトなどにまとめる。
文化についての理解を深めあう。またTV会議の手法に慣れる。
- (6) 振り返りを実施する。（個人・グループの研究を全体で共有する）

12月～3月

- (7) 振り返りを実施する。（個人・グループの研究を全体で共有する）
プレゼンテーションソフトにまとめる。
- (8) お互いの共有できる Webページでさらに交流を続ける。

研究の成果

これまでの実践を活かし、お互いに今度は実際にビデオ会議や掲示板などのICTを活用して意見交換をして文化理解の中身を深めることができた。コミュニケーションを通じて、自分達の考えを簡潔にまとめ、相手にわかりやすく表現することや、相手を確実に理解するといった。実践的なコミュニケーション能力を習得する。また特に コラボレーション力が大切だと生徒達は感じていたようだ。生徒の様子：特に海外の学生との場合は、共通のテーマをベースにしてプレゼンをするということが必要なもので、世界との交流（国際交流にとどまらない）に対する好奇心や新しい企画（構想）・創造に向かう探究心を持ち、国を超えて学ぶコラボレーション力が必要となった。指示まちはなく、自分ですすめていく自律性を持ち、またその結果に責任をもつ力、一方で他人に対して働きかけ、巻き込める、チーム内で働くことができる力の必要性を強く感じた。リーダーシップとチームワークをバランスよく保つ能力が必要だということを実感したようだった。

- (1) 掲示板を通しての異文化交流であり、それぞれの国の考え方や違いをメールやビデオ紹介を通して実感することができた。今までの交流とは違う迫力を感じながら 交流を実施した。またお互いの生徒の考えを知り、理解を深めながら交流したため、深いレベルでの国際交流ができた。
- (2) 生徒主体のプロジェクト学習を実施することにより、主体的に学ぶ意欲や問題発見・解決能力を身に付けることができた。
- (3) 海外の生徒と直接コミュニケーションをとる中で、お互いの文化についての正しい認識をもつことができた。
- (4) さまざまな IT 技術を利用する中で、IT 技術力の向上ができた。
- (5) 交流を英語または日本語で行うため、相手国の言語に対する関心と学習意欲を相互に喚起することができた。

活動報告 3 異文化理解とコミュニケーション能力の育成（継続）

- ・実施時期 2015年4月～2016年3月
- ・事業形態 対象者 高校2年生
- ・他機関等との連携 卒業生・私立大学
- ・目的・目標

コミュニケーションスタイルのちがいの背景には、文化の違いがあること、また非言語（ノンバーバル）なコミュニケーションの存在を意識することで、言葉でなくても気持ちを伝えることができること理解する。

- ・概要

教科 総合的学習での取り組み

- (1 講座目) コミュニケーション 文化やコミュニケーション方法が違うことで起こる誤解などを考える
- (2 講座目) コミュニケーション 言語以外のコミュニケーションのとり方を知る。
- (3 講座目) 異文化理解 留学生の立場から 留学生の主張を聞き、国際交流や異文化理解で大事なことについて考える。
- (4 講座目) コミュニケーション 3つのコミュニケーションを知る。
- (5 講座目) 異文化理解ワークショップに向けて 次回のワークショップに向けて インドネシア・中国・タイ・韓国・ベトナムのグループ別 事前学習
- (6 講座目) 異文化理解 ワークショップ 専門にアジアの言語を教える方々を招き その国の言語や文化について知る。
- (7 講座目) 修学旅行事前学習 アボリジニーの文化を学ぶ
英語の問題集で学ぶ・ビデオ学習でオーストラリアの先住民の文化に触れ、文化相対主義の考え方について学ぶ。
- (8 講座目) 修学旅行事後学習 コミュニケーションの実際
オーストラリア現地でのコミュニケーションについて振り返り、またその違いなどについて学ぶ。

研究の成果

この活動は高校2年生が全員体験する活動です。修学旅行がオーストラリアのメルボルンでのファームステイを含むため、多くの事前学習をそれまでに経験する。現地の水の問題や生活の問題などにも踏み込んで学習する。ファームステイでは指示まちではなく、自分ですすめていく自律性をもち、またその結果に責任をもつ力、一方で他人に対して働きかけていく力の必要性を強く感じた。また自然の大切さを実感したようだった。

活動報告4 ASP 大阪 高校生フォーラム（継続と新規）

- ・ 実施時期 2015年4月～2016年3月
- ・ 事業形態 対象者 高校1・2・3年生
- ・ 他機関等との連携 文部科学省ユネスコ国内委員会、大阪府立大学・財団法人日本ユネスコアジア文化センター<ACCU>、
後援；大阪府教育委員会、海外ネットワーク参加国：韓国(上黨高等学校)、中国(中国人民大学附属高校) 他・プログラム概要

このセミナーは、2014年に日本で開催される「DESD 最終年会合」での政府閣僚級会議(愛知)に合わせて実施される“UNESCO World Forum of ASPnet High Schools”(UNESCO ASPnet 高校生世界フォーラム<開催地岡山市>)に向けた準備セミナーとして開催されました。このセミナーの特徴は、世界で行なわれているASPnet 高校生国際会議と同様、高校生自身の手によってフォーラムが運営され、参画と発信等を担うことができるスキルや心構えを育てることにあります。そして、この成果を確かなものにするため、2012年度は「東アジアフォーラム(中国、韓国、日本)」を実際に開催し、“若者世代”として共に“持続可能な未来”を考え、学びあう国際フォーラムを運営しました。

2013年度の準備セミナーは、UNESCO ASPnet としての「7カ国高校生国際会議」や「小中高大学生による国際ワークショップ」等の運営経験を持つ大阪府立大学/大阪ユネスコスクール(ASPnet) ネットワークが文部科学省から委託を受け、開催地の岡山市/岡山 ASPnet 加盟高校等と協力して実施するものでした。また、広く日本全国の高校生が参加して世界フォーラムを運営することができることを意図して、2013年度の「準備セミナー」への参加を希望する高校生の募集を行ないました。そして結果 岡山での大会に参加しました。

今年度は12月に中国の高校生と一緒にいろいろと交流を続けました。

活動報告5 国際理解と ICT (プログラミング) (継続)

- ・ 実施時期 2015年4月～2016年3月
- ・ 事業形態 対象者 高校2年生、
- ・ 他機関等との連携 DeNA
School: Indonesia SMA HS

スマホロボット「ROMO」を活用した高校生による新サービスの企画発表会

■ コラボレーション授業開催の背景

- 2011年より羽衣学園と株式会社ディー・エヌ・エー (DeNA) は、インターネットの安心・安全な利用促進のための啓発講座を毎年行ってきました。その中で、今後ますます進むインターネット社会でどのようにネットを上手く活用して生きていくかをテーマに、ネットの闇の部分だけでなく、光の部分に焦点をあて、高校生自身が事業会社と、より発展的なネットの活用について一緒に考えるような取り組みを始めたいと考えておりました。今回スマホロボット「Romo」(<http://www.romotive.jp/>)の日本国内正規代理店であるセールス・オンデマンド

株式会社（SOD）の協力を得て、「ROMO」を通じてプログラミングやアプリ制作に関する初級講座を行うコラボレーション授業を展開することになりました。

■コラボレーション授業の目的

- ・「Romo」の動作設定と利用体験を通じてスマートフォン上でのアプリケーションの仕組みを理解する。
- ・「Romo」の活用事例について高校生が自由に新サービスや新商品案を企画立案する。
- ・企画立案のプロセスにおいて、顧客ニーズの把握や顧客ニーズのマッピングなど、より実際のビジネスに近い状態での企画立案スキルの習得を DeNA が支援する。
- ・プログラミングやアプリ制作に関する初級講座を DeNA エンジニアが支援することで、スマートフォン上でのアプリケーションの仕組みなどを理解する。
- ・従来の安心・安全にインターネットを利用するための啓発授業の域を超え、産学連携でインターネットの利活用をテーマにコラボレーション授業を展開する。

■コラボレーション授業の概要：年間通じて授業を3回に分けて実施

<第1回>9月：DeNAによる企画主旨の説明。SODによる「ROMO」の紹介と「ROMO」の体験。
 <第2回>10月：DeNAよりシステム開発およびプログラミングについて、新商品企画にあたってのアプローチについて説明。

インドネシアの学生とコラボレーション授業実施、協働学習実施

<第3回>3月：生徒による「ROMO」を活用した企画案のプレゼンテーションと表彰（DeNA賞、ROMO賞など）、DeNA、SODによる総評

活動報告6 国際理解とアート（継続 ただし相手校は新規）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用 ユネスコクラブの活動として実施
- その他（美術部として実施）

- ・実施時期 2015年4月～2016年3月
- ・事業形態 対象者 高校2年生、美術部
- ・他機関等との連携 ジャパンアートマイル
 School: University Of Zimbabwe

・目的・目標

- (1) 「自己紹介や壁画の協同制作を通して、相手を理解し自分の思いを伝えることができる（コミュニケーション）
- (2) 交流相手を通してステレオタイプでない生の異文化に接し、相手を理解することができる（異文化理解）
- (3) 自分たちの地域や文化を調べて伝えることで、自分たちの良さを再認識することができる（自文化理解）
- (4) テーマについて調べたことや考えたこと、人に伝えたい思いを絵で表すことができる（表現）

	段階	学習活動	ねらい	教科・領域
5月	導入 2～3h	1) オリエンテーション ・ワークショップ体験など 2) アートマイル作品を鑑賞する ・Web/ゲストティーチャー	(4) 世界と自分たちのつながりに気づく (5) 壁画制作・国際交流への意欲を高める	図工・美術
6	テーマ学	1) テーマを決め、下調べをす	・環境、異文化、食など交流テ	

月	習 3～5h	る ・ゲストティーチャー ・ビデオ／図書／インターネット	マについて関心を深める	国語
7月	情報収集 2～3h	1) 学校や地域を紹介できる資料を集める ・校外活動／カメラ・ビデオ 2) 外国語で自己紹介を練習する ・ALT／地域の外国人の方	(6) 自分たちの学校や地域の特徴をメディアや外国語を使って紹介する (7) 外国語を学ぶ必要性を実感する	外国語活動
9月	自己紹介 4～6h	1) 自分・学校・地域を紹介する ・自己紹介カード／ビデオレター ・掲示板／TV会議	(8) 相手と出会い、仲間意識を育てる (9) 相手の学校や地域の特徴を知り、自分たちの特徴を分かり直す	外国語活動 技術・家庭科 国語
10月	テーマ交流 4～8h	1) テーマに沿って自分の国や地域・相手の国や地域を調べる ・図書／インターネット ・校外活動 2) 調べた内容を報告・共有する ・掲示板／TV会議	交流相手と共通の視点でテーマを掘り下げて調べる ・相手が理解できるように内容や表現方法を考える ・壁画のメッセージを一緒に考える	社会科 国語 外国語活動
11月	構図決め 3～5h	1) 構図と制作分担を決める ・掲示板／TV会議 2) 下絵をデザインする	・壁画の制作意図を提案し、交流相手の意見と調整する ・構図に合わせて制作分担を考える ・日本側の下絵をデザインする	特別活動 図工・美術
12月	日本側制作 6～8h	1) キャンバスに下絵を写し、色を塗る 2) 描いている様子や作品を相手に伝える ・掲示板／TV会議 3) 半分できた絵を相手に郵送する	・できあがりを予想しながら仲間と協力して壁画を制作する ・相手の気持ちを意識しながら壁画を制作する ・作品を通して伝えたい気持ちを持つ	図工・美術
1 ～ 2月	相手側制作	1) 相手の制作過程を知る ・掲示板／TV会議	・相手校の進行具合を見守り、感想を伝える ・相手の様子から完成作品へのイメージをふくらませる	
3月	鑑賞 2～3h	1) 完成作品を展示・鑑賞する 2) 作品や活動をふりかえり、感想を伝え合う ・掲示板／TV会議	・完成の喜びをクラス全員で味わう ・壁画の感想を出し合う ・交流相手に自分たちの思いを伝える ・活動を通して学んだことをまと	図工・美術 外国語活動 特別活動

			める	
--	--	--	----	--

活動報告7 海外の学校と国内の学校とネット問題（スマホ問題）学びあい（継続）

- ・ 実施時期 2015年4月～2016年3月
- ・ 事業形態 対象者 高校1・2・3年生 ボランティア部員
- ・ 他機関等との連携 台湾高雄市教育委員会
 海外：Kaohsiung Vocational industrial Senior High School（台湾高雄市）
 国内：主催・共催：一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構
 安心ネットづくり促進協議会 大阪私学教育情報化研究会
 後援：内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省 北海道、奈良県
 北海道教育委員会、奈良県教育委員会、大分県教育委員会
 北海道青少年有害情報対策実行委員会
 全国高等学校情報教育研究会、東京都高等学校情報教育研究会、
 大阪府高等学校情報教育研究会、奈良県情報教育研究会
 独立行政法人情報処理推進機構、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研
 究所、一般社団法人全国高等学校PTA連合会、一般社団法人ソーシャルゲーム
 協会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人日本スマートフォン
 セキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメント
 レーティング機構
 協賛：グーグル株式会社、グリー株式会社、株式会社ディー・エヌ・エー、株式会社メ
 ディア開発総研、LINE株式会社、株式会社中部トータルサービス

高校生 ICT Conference 2015 とは

高校生 ICT Conference は、2011年に「高校生熟議」として大阪でスタートしました。2013年は、北海道、東京、大阪、奈良、大分と5拠点、計51校267人の高校生が参加。高校生同志が、身近なケータイやインターネットの問題を通して、共に考え、議論し、まとめ、発表することで、コミュニケーション力とプレゼンテーション力を育む場として開催されました。さらに高校生の意見を中央に届けるべく、各地域の代表者がサミットにより提言にまとめ、内閣府、総務省、文部科学省で発表いたしました。2015年も引き続き全国9拠点、より広い地域の、高校生ならではの意見を政府に届けるべく、開催しました。

活動報告8 グローバル人材育成（継続）

- ・ 実施時期 2013年4月～2014年3月
- ・ 事業形態 対象者 高校1・2・3年生
- ・ 他機関等との連携 大阪私学教育情報化研究会、ブリティッシュカウンシル
 マレーシア ペカン、インドネシア 3校

研修の目的

グローバル化の進展により、我が国でも地球規模で活躍できる人材を求める声が高まっている。が、それと逆行するかのように若者の内向き志向が指摘されている。若者を含む国民の中に異文化に対する耐性ができていない状況で、現在、急激に進行していると言われる産業の空洞化や、人口減による移民の受け入れなどが起これば、社会的混乱を生み出す。また、産業の空洞化は、内向き志向の若者の職を奪うことになり、これがさらに社会の混乱を増殖する。このような社会・経済状況の中、教員もその影響を受け、教員自身が内向き志向に陥る恐れ

が多分にある。就職難の中、苦勞して教員になれたという思いを持つ教員が多くなれば、外にチャレンジしていく姿勢が生まれにくい。

最近の学生は、就職するには英語だけでは不十分で、プラスαがないと採用されないと考えているようである。学生たちの置かれた状況を考えると、例えば英語教員もまた、英語を「読み書き話す」手段・技術として教えるだけでは、時代を生きる学生を育てることはできない。進学校では、受験技術に秀でた教員が求められているが、卒業生の多くは、社会の中核を担う人材である。受験技術の習得だけでは、時代が求める発想力豊かな人材が育たない。以上のような時代認識から、本研究会は、「グローバルな人材を育てる教員の育成を目指す」ことを目的として、以下の活動を行う。

アジアを中心とした海外の学校とオンライン授業交換を実施し、検証を行い、その成果をもって教員研修会を実施する。授業者は、相手国言語を一定程度習得している教員が当たり、当該教員のその後の授業にどのような影響・効果をもたらすかも検証する。英語教員や他教科の教員が、アジアを中心とした国々とオンラインを含む直接・間接の「接触」体験を通じて、自ら成長することで、次代を担う人材を養成することができるのである。

活動報告 9 外務省絆プロジェクトからの継続企画

- ・ 実施時期 2015年4月～2016年3月
- ・ 事業形態 対象者 高校1・2年生
- ・ 他機関等との連携 日本ユネスコ協会連盟

絆プロジェクト：2013年 アジア大洋州地域及び北米地域の41の国・地域から青少年を日本へ招へいし、交流プログラムや被災地視察、ボランティア活動等を実施するとともに、日本の青少年をそれぞれの地域へ派遣することを通じ、日本再生に関する外国の理解増進を目的として、日本政府により進められた事業。このうち、カナダとの交流事業については、外務省からの拠出先である UNESCO（国際連合教育科学文化機関）から受託し、招聘に関しては公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟と財団法人日本国際協力センターが、また派遣に関しては、カナダ UNESCO 国内委員会が実施した。

本校も5月に受け入れ、10月に訪問をした。継続として昨年度より3月に約20名バンクーバーへの短期研修を実施、その研修期間中に交流高校である New Westminster HS を訪問する。

（2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ ）